

| 学校教育目標 | |
|---------------------|--------------------|
| ○自ら考え 正しく判断し 実践できる人 | ○自他を大切にし 社会に貢献できる人 |
| ○健やかで 人間性豊かな人 | |

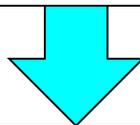


| 令和6年度学校経営方針（学力向上に関わる要点） |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領を踏まえ、指導内容の見直しと指導と評価の一体化を図り、生徒の確かな学力の定着に努める。 ○個別最適な学びと協働的な学びのそれぞれを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、一人ひとりの資質・能力が確実に育成できる教育を実現する。 ○カリキュラム・マネジメントの視点を生かし、生徒及び学校の実態に応じた授業の改善に努め、教育活動の充実を図る。 |



| 指導の重点（各教科） |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○各教科の目標及び学校の教育目標を達成するために、生徒一人ひとりに基礎・基本の定着を図り、思考力・判断力・表現力の育成を重視し、小グループによる討論やプレゼンテーション等の学習を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 ○生徒一人ひとりの意欲や能力の伸長を図り、学力向上を目指す。そのために「中野区学力にかかわる調査」の結果を踏まえ、指導と評価の一体化を工夫して授業改善プランに反映させる。 ○基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、ワークシート、レポート、ノートの書き方や活用の仕方等の指導を充実させる。また、学校の教育活動全体を通して、少人数やグループでの言語活動を充実させることにより、意図的・計画的に思考力、判断力・表現力等を育成する。 |

| 指導の重点（総合的な学習の時間） |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間のねらいを踏まえ、課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現の探究プロセスを基に生徒一人ひとりの資質能力の向上を図るように各学年が創意工夫して取り組む。「よりよく生きる」をテーマとし、発信する力を言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動を行い、自らよりよい生き方に役立てようとする意欲や能力を育み、生きる力を育成する。 |



| 授業改善に向けた具体的方策 | | |
|---|---|--|
| 基礎的・基本的な学習内容の定着 | 発展的な学習 | 指導と評価の一体化 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器やiPadを効果的に活用して、生徒の興味関心を引き出す授業を実現する。 ○講義型授業からの脱却。教師が話しすぎ、教えすぎない、生徒に考えさせる授業を実現する。 ○「聞く」「書く」以外の学習活動を増やすことと、主体的に学習に取り組むための工夫を行う。 ○任短教員を活用し、週2回放課後学習教室を開き、基礎・基本の定着を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○一人1台端末を活用し、AIドリル「ドリルパーク」によるICT機器を用いた学習を全校体制で取り組む。さらに、家庭学習等、生徒に意欲的に学習に取り組ませることで「自ら学習する力や考える力」を身に付けさせるよう継続的に指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図る。 |
| 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実 | ユニバーサルデザイン、合理的配慮 | 家庭・地域との連携 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を確実に身につけることができるよう、生徒の実態に応じ、学習の見直しをもたせ、多様な選択肢から自己決定し、学びを振り返って調整する学習を実現していく。生徒一人ひとりの学びを保証し、オープンエンドにならないような指導を継続していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習目標、学習活動、授業内評価を明確にすることで、見直しをもって授業を受けられるようにするとともに指導と評価の一体化を図り、学習意欲の向上に繋げる。また、一人ひとりの状態に応じた教材等の確保。（デジタル教材、ICT機器等の利用） | <ul style="list-style-type: none"> ○地域資源の活用や家庭および関係諸機関との情報共有により、開かれた学校づくりを進める。授業と家庭学習を連携させた新しい学習を定着させることで、個別最適化された学びを実現させる。 |

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

国語科における指導の重点

- ノートやワークシートを活用した書く力の育成に加え、漢字ドリルや小テスト等を通じて、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指す。
- 授業中のさまざまな場面で、ペア活動や、グループ活動、プレゼンテーション等の機会を設け、言語活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- 情報を収集してまとめる活動や、家庭学習等に一人1台端末を活用し、自ら考える力や主体的に学習する態度を育成する。

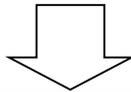
現状分析

区学力調査の結果分析

- 全学年達成率が6～7割前後となっており、基礎的・基本的な学力は定着できていることが分かる。教科全体の正答率と目標値を比較すると、1年生は11.9ポイント、2年生は0.3ポイント、3年生は6.0ポイント上回っており、全体的な理解はできていると言える。領域・観点別の正答率において、1年生は、「言葉の特徴や使い方」を問う問題の正答率が低く、語彙を増やしていく必要があると考えられる。また、領域別に見ると、「書くこと」で区平均を1.6%下回り、「読むこと」は0.8%上回った。2年生は領域1漢字の書きが平均より7ポイント下回り、領域3・4についても下回った。主体的に取り組む態度はA～Dのどの層においても7～90%が肯定的に回答している。3年生は「言葉の特徴や使い方」に関する問題の正答率が低く、文法の知識を確実なものにしていく必要があると考えられる。また、領域1漢字の読み書きにおいて、定着度が二極化していることが明らかになった。

教科指導上の課題

- 言葉・情報・言語文化に関する事項について、授業内で語彙を増やす活動に取り組んでいくとともに、文章の読み取り、特に文学的文章の読み方を身に付けていくことが必要である。また、相手に伝わりやすく書く練習も行っていく必要がある。(1年)
- 言葉・情報・言語文化に関する事項について、漢字や古典の知識の定着を図るとともに、論理的文章を正確に読むこと、読み取った内容を要約して書き、相手にわかりやすく伝える技能を養うことが必要である。(2年)
- 言葉・情報・言語文化に関する事項について、漢字や文法の知識の定着を図るとともに、論理的文章を正確に読み取り、自分の考えや意見を相手に伝わるように表現する技能を養う必要がある。(3年)



授業改善プラン

| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点 | その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等) |
|-----|--|---|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○漢字ノートを活用した漢字学習を進めながら、言葉の意味や成り立ちについても触れ、生徒の関心を引き、主体的な学びにつなげる。 ○作文を書かせる際、型を与える機会を設け、書くことの抵抗感を軽減する。そして、小グループで回し読みをし、相互評価を行うことで、良い文章の書き方を身に付けさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読み・書きは週1、2回の漢字テストと、漢字ノート提出で日常的な学習により定着を図る。小学校での既習漢字も繰り返しテストに出題し、確実に書けるようにする。 ○文法・語彙は、授業内のプリントで練習を行った上で、デジタル教材のミライシードも活用し、多くの問題を解くことで定着させる。 |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○デジタル教材ミライシードのドリルを活用して個別の学習課題や学習活動の時間を設定し、自分に合った学習活動を選んで、調整しながら学習に取り組む機会を設ける。 ○各単元での学習において、まず個人で考える時間、ペアやグループで共有・検討する時間を設定し、視点や考えを広げる「協働的な学び」につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○下学年必修の漢字を含めた家庭学習として、デジタル教材ミライシードを活用する。小学校4～6年の漢字を読み書きできるよう、繰り返し取り組むための時間を設ける。 ○新出語句や慣用句の確認を行ったうえで、実際に使用して記述する機会を設けたり、論理的文章を要約をしたりすることで、実用的な語彙の獲得を目指す。 |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの学習において、ペア・グループで取り組む課題を設けたり、作文を書かせる際に生徒同士でアドバイスしたり質問したりする機会を設けたりする。 ○ミライシードのドリルを活用し、確認テストに向けて、自分に合った学習課題を選び、調整しながら学習に取り組む機会を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読み・書きは週1、2回の漢字テストと漢字ノートの提出で、日常的な学習をより定着させる。 ○文法や慣用句、古典の知識の定着を図るため、ミライシードを活用したり、月2、3回確認テストを行ったりする。 |

(2) 社会科

【中学校】

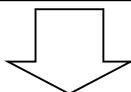
社会科における指導の重点

- 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の具体的な事象に関する学習を進めていく中で、一般的な知識へとつなげていき、学習したことを活用して考えられる力を身に付けさせる。
- 個別の知識としての学習でとどめず、生徒自身の生活や現在の社会的課題とのつながりを意識させ、生活している場所や時代は違えど「自分だったらどうするか」という視点をもって、自分の考えをもつよう促していく。

現状分析

教科指導上の課題

- 知識としての正答を導き出すだけでなく、課題に対する自分の考えを表現するよさを味わえるようにするため、グループによる協働学習で、互いの意見を尊重し、考えを述べやすい雰囲気づくりをする必要がある。



授業改善プラン

| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点 | その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等) |
|-----|---|---|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none">○各単元毎にいくつか発問を行い、初めに生徒が自分自身で考察しまとめる時間を設ける。その上で、少人数グループで意見を共有・発表する機会を設け、思考力・判断力・表現力を養うと共に、異なる考え方に触れさせる。○一人1台端末を活用して、地理・歴史共に各単元毎に繰り返し取り組むことのできる確認テストや、ドリルパークに取り組ませることで、それぞれの苦手分野における知識の定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none">○授業開始時に、前時の学習内容についての質問を行い、基礎的・基本的な知識の確認をする。○電子黒板や一人1台端末上に写真や図、動画を表示し視覚的に訴えることで、生徒たちが地理的・歴史的背景を想像しやすく、より内容に興味・関心をもつことができる授業構成に努める。 |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none">○単元ごとに学習テーマを設定し、個別で調べ学習を行わせただうえで少人数グループによる協働学習を行わせる。さらに、個人の振り返りとしてレポートに取り組ませることで、生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばさせる。○一人1台端末を活用して、AI学習ドリル「ドリルパーク」による生徒の学習状況に応じた自由進度学習を実践する。 | <ul style="list-style-type: none">○授業開始時に、毎回、前時の学習内容についての質問を行い、様々な生徒に答えさせることで、基礎的・基本的な知識の定着を図られているかを確認する。生徒の習得状況に応じて、補充的な説明を行う。○習得した基礎的・基本的な学習内容を次の学習単元で生かせるように、学習テーマの設定を工夫する。 |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none">○公民分野の学習において、グループ活動による意見交換・討議を通して、自らの意見を組み立て、それを発表することと、他の人の主張から自らの意見を再構築し、他の人を説得、納得させられるような力を付ける機会を設ける。○一人1台端末を活用して、学習内容の振り返りや授業ノートに補足や注釈を加える作業などを通して、自らの学習過程や理解度がわかるようにする。 | <ul style="list-style-type: none">○毎時の授業はじめに、前時の要点の振り返りを行い、基礎的・基本的な知識の定着を促す。また、学習ノートの補足や注釈の作業を通して理解を深めるよう工夫する。○生徒が各自の学習のタイミングでデジタル教科書やNHK for school等の動画を活用しながら予習・復習することができるように、つまづきが起こりやすいところに解説動画等のリンクを用意する。 |

(3) 数学科

【中学校】

数学科における指導の重点

- 少人数・習熟度別指導の効果的な実施や、定期的な振り返り小テストの実施、昼休みや放課後での補充教室を通して、生徒一人ひとりに基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指す。また、授業内での対話的な協働学習による学びの機会を大切にし、数学的な思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- 主体的に学ぶ態度の育成を目指し、毎回の授業や定期試験後の振り返り活動を大切にすることで、生徒が自身の学習状況を正しく理解し、学習の自己調整をする機会を設け、学力向上に関する継続的なサイクル確立を目指す。

現状分析

区学力調査の結果分析

- 領域別に比較していくと、3学年すべてにおいて全国・中野区の平均を上回っている。特に第3学年ではすべての領域で5ポイント以上上回っており、継続的な取組の成果が見られた。4層分析の結果からは、パターンⅠとパターンⅢの傾向が見られた単元が多く、習熟度別少人数指導の影響が表れていると考えられる。また、単元別に分析していくと、1学年では「起こりうる場合」での達成率が全国平均に対して1.2ポイント下回り、2学年では「空間図形」「データの活用」での達成率が区平均に対して1～2ポイント程度下回るなど、内容によっては課題のある単元が見られた。

教科指導上の課題

- 4層分析の結果からパターンⅠの傾向が見られる単元では、少人数指導の中でも協働学習の場面を設定することで学び合いの環境を構築し、学習内容の振り返り等を通して未定着の生徒が減少するような指導の工夫が必要である。また、パターンⅢの傾向が見られる単元では、定期的に行われる復習小テストを活用しながら補習等を行い、基礎的な学力の定着を図る指導の工夫が必要である。
- 1学年の「起こりうる確率」や2学年の「データの活用」など、データを活用する単元における学習内容の定着に課題が見られたため、知識・技能を定着させる指導内容の工夫・改善をしていく必要がある。

授業改善プラン

| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点 | その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等) |
|-----|---|--|
| 1年生 | ○学習内容の振り返りをする時間を設け、個別に理解を深めたり、自身の学習状況の振り返りを行ったりする機会を設定する。また、共働学習での課題解決を通し、多くの考え方や活用方法を学び、思考力を育成していく。そして、起こりうる場合やデータの活用に関しては、基本的事項に遡った個別指導が必要であるとされるため、AIドリルの活用等を行い、個別最適な学びの環境を構築する。 | ○毎回の授業時に、基本計算の確認プリントを取り入れ定期的に小テストを行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を図ると共に、自身の学習の理解度について、学びの自己調整を図る機会を設定していく。また、定期試験後に振り返りのレポートを課し、思考の流れを書き起こし、間違えないためのポイントを自分で分析、振り返らせ、基礎的な内容の定着や学力向上を図る。 |
| 2年生 | ○既習事項や前時の内容と絡めながら、新たな課題に対して、自力解決を促す指導を行う。協働学習での課題解決を通して、様々な考え方に触れる機会を作り、自身の学習状況の振り返りを行う機会を設定する。方程式とデータの活用については、基本的事項にさかのぼった個別指導が特に必要なため、一人1台端末を活用した学習を行う環境を整備し、個別最適な学びの場を構築する。 | ○毎回の授業時に、基本計算の確認プリントを取り入れ、定期的に小テストを行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を図ると共に、自身の学習の理解度について毎授業後にいくつかの視点を与え、振り返りを記入させ、学びの自己調整を図る機会を設定していく。また、定期試験後には振り返りの時間を必ず設定し、うまく定着していない学習内容についてレポートにまとめるなど、自分の考えたことを分析し、理解を深めるための時間を設定していく。生徒自身の振り返りを教員の指導改善の材料にし、学力の向上を図る。 |
| 3年生 | ○既習事項や前時の内容を活用して、協働学習での課題解決の場を設定し、自力解決を促す指導を行う。復習テストや定期試験の振り返りなど自身の学習状況の振り返りを行う機会を設定し、学びの自己調整の機会を設けるとともに、AIドリルの活用や習熟度別の課題の提示など、個別最適な学びの環境を構築する。 | ○授業時に基本計算の確認プリントを行い、定期的に復習小テストを行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を図ると共に、学びの自己調整を図る機会を設定していく。小テストについては、習熟度の基準を設定し、必要に応じて補充学習を行い、基礎的・基本的な内容の定着を個別に図っていく。 |

(4) 理科

【中学校】

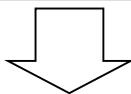
理科における指導の重点

- 生徒が実験や観察など実際に体験する機会を多く設定し、理科への興味・関心をもたせる工夫をする。また、授業でのグループ活動を実験の考察やまとめの時間に行うとともに、自分の意見をプリントなどに記入してまとめ発表させるなど、生徒が主体的に活動する機会を増やし、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ドリルパークなどの学習サイトの利用や Classroomでの課題配信など一人1台端末を活用し、生徒が主体的に学習に取り組むことで、自ら学習する力や考える力を身につけさせる指導を行う。

現状分析

教科指導上の課題

○データから読み取り、その結果を分析する力に課題が見られる生徒が多い。また、分析の方法が曖昧であったり、根拠をはっきりさせることができている場面も見られた。データを分析する視点やデータを活用する方法などを指導する必要がある。また、結果を理解し自分の言葉で表現することが得意ではない生徒も多いた。授業における自分の意見をまとめ、発表する力を育成する指導をする必要がある。



授業改善プラン

| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点 | その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等) |
|-----|---|--|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none">○一人一台端末を活用し、生徒の興味関心を高め基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、実験・観察等を行いワークシート等で理解の定着を図る。また、各生徒の学習状況を把握して一人ひとりにあった学習を行う。○考察や考えを個人で考えた後、グループ内で共有する時間を設け、協働的な学習を行わせる。その中で、思考力や表現力をのばしていく。 | <ul style="list-style-type: none">○单元ごとに定着を図るためにドリルを繰り返し実施させる。○授業内で、生徒の知識や理解度を確認し、状況に応じて補足説明を行うことなど、授業展開を考えていく。○実験・観察はワークシートを用いて生徒一人ひとりを積極的に参加させる。 |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none">○小テストを定期的に行う事や、AIドリルの課題などを活用して、自分自身の学習の定着度合いを確かめさせる。○グループ活動で考え方を共有させることで、協働的に授業を理解する環境を授業で設ける。 | <ul style="list-style-type: none">○ワークの演習問題等を複数回実施させて学習の定着をはかる。また、定期的に既習の範囲を振り返ることができるように課題を出し、記憶の定着をはかる。○授業の導入では、生徒に発問する形で前時の振り返りを行い、授業のつながりを意識させながら授業を進める。また、授業内では自分の意見を書く時間と意見共有を行う時間を多く取り入れ、生徒が主体的に活動する時間を繰り返し設定する。 |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none">○授業での班行動では、個人でまとめ考えを整理する時間や班で協議して結果を分析する時間をとるなど、個人で考えたことを他の生徒と協働してまとめ、理解を深めるように工夫する。また、全体で分析の結果を共有し、自分たちの実験の分析を振り返ることができるようにする。○自分で書いた意見を同じ班やクラスで共有し、お互いに評価し合う時間を授業で取り入れることで、自分の表現力を向上させる。 | <ul style="list-style-type: none">○ドリルパークやワークなどの繰り返し学習に取り組める教材を中心に、自分で粘り強く学習する姿勢を身につけさせる。○授業内での発問を通し、クラスの生徒の学習状況を把握し、必要に応じて授業内での復習を行ったりして、授業展開を生徒に合わせて行う。 |

(5) 音楽科

【中学校】

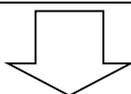
音楽科における指導の重点

- 各教科の目標及び学校の教育目標を達成するために、生徒一人ひとりに基礎・基本の定着を図り、思考力・判断力・表現力の育成を重視し、全員で一つの楽曲を作ることで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。
- 生徒一人ひとりの意欲や能力の伸長を図り、学力向上を目指す。
- 基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、ワークシート、レポート、ワークの書き方や活用の仕方等の指導を充実させる。また、学校の教育活動全体を通して、少人数やグループでの表現活動を充実させることにより、意図的・計画的に思考力、判断力・表現力等を育成する。

現状分析

教科指導上の課題

- 音楽を楽しんでおり、歌唱、鑑賞共に意欲的に取り組んでいる。男女バランスも良く、3部合唱のハーモニーも美しくできている。一方、男子生徒に変声前、変声中、変声後が混在しパート分けに苦慮している。この変声期に合唱が苦痛、嫌いとならないように指導を工夫する必要がある。(1年生)
- 授業に意欲的に取り組んでいる生徒が多く、パートリーダーが、中心となり練習を進めている。正しい音程を取ることに苦戦している生徒もいるが、工夫した歌唱表現にも興味をもって、取り組んでいる。(2年生)
- 最上級生として授業に落ち着いて取り組んでいる。男子の方が人数が多く、変声期が終わった生徒が多いためハーモニーのバランスがなかなかうまく取れないが、ほとんどの生徒が歌うことは好きで、どんな曲もしっかり声をだし、歌うことができる。正しい音程が取れる生徒も多いので、パートで協力をしながら楽曲を作って行く喜びを感じ、達成感を味わわせたい。(3年生)



授業改善プラン

| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点 | その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等) |
|-----|--|---|
| 1年生 | ○正しい発声、発音、身体の使い方を身に付けさせる。iPad を利用し、指揮を振ったり歌ったりしている様子を客観的に見ることで、個々の課題を見つける。合唱曲の音源などを活用し音楽を形作る様々なものに目を向けさせ、表現の工夫ができるように考えさせる。パートの中でどのように表現したら良いかを話し合いパートから学級全体に広げ、楽曲を創り上げていく達成感を味わえるようにする。 | ○音楽の用語や記号の意味に興味をもち、楽譜の読み取りができるようにし、作詞、作曲者の意図を楽譜から理解できるようにする。 ○日頃から様々な楽曲に取り組むことで、楽曲について考えた表現方法について、実際にできる技術を身に付けられるようにする。 |
| 2年生 | ○歌うときの身体の使い方を向上させ、良い発声で歌えるようにする。iPad を利用し、指揮を振ったり歌ったりしている様子を客観的に見ることで、自分の良さに気付くと共に、課題を見つける。合唱曲の音源などを活用し、音楽を形作る様々なものに目を向けさせ表現の工夫を考え、実践できるようにする。パートの小集団の中でどのように表現したら良いかを話し合う。パートから学級全体に広げ、楽曲を創り上げていく達成感を味わえるようにする。 | ○音楽の用語や記号の意味と音符や休符を理解することで楽譜の読み取りをできるようにし、作詞、作曲者の意図を楽譜から理解できるようにするとともに、どのように表現したらよいかを考えられるようにする。 ○日頃から様々な楽曲に取り組むことで、楽曲について考えた表現方法について、実際にできる技術を身に付けられるようにする。 |
| 3年生 | ○歌うときの身体の使い方を向上させ、楽曲に適した発声で歌えるようにする。iPad を利用し、指揮を振ったり、歌ったりしている様子を客観的に見ることで、自分の良いところを認め、課題となるところを見つける。合唱曲の音源などを活用し音楽を形作る様々なものに目を向けさせ、作曲者の意図を捉えたと共に詞の意味を考え、自ら表現の工夫ができる | ○音楽の用語や記号の意味と音符や休符を理解することで楽譜の読み取りができるようにし、作詞、作曲者の意図を楽譜から理解できるようにするとともに、どのように表現したらよいかを考えられるようにする。 ○日頃から様々な楽曲に取り組むことで、楽曲について考えた表現方法について、実際にできる技術を身に付けられるようにする。 |

| | | |
|--|--|--|
| | <p>ように工夫させる。パートの特徴を理解し、どのように表現したら良いか意見を出し合い、楽曲を創り上げていく達成感を味わえるようにする。</p> | |
|--|--|--|

(6) 美術科

【中学校】

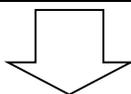
美術科における指導の重点

○表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。具体的には、①表現方法を創意工夫する、②主題を生み出し豊かに発想する、③心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

現状分析

教科指導上の課題

- 自分の考えや伝えたいことを文字で伝える力を伸ばす必要がある。
- 自分の考えの特徴や良さ、工夫に周囲との対話の中で気づき、作り手自身の自己肯定感を高め、自分の考えを言語化し伝達できるような指導をする必要がある。造形的な良さや美しさを理解した上で、表現の意図を明確にし自分の表したい事を見通しをもって制作し完成できるように指導する。
- 自分の考えを的確に言語化し具体的な表現を考え、他者に伝えることが出来る。また、グループワークなどで他者の気持ちや考えを受け止め、自身の感じ方や考え方、表現方法を広げ深めることができるよう指導する必要がある。主体的に考えつつ、対話的な学びから、個人の学びが今後の生き方や社会での在り方につながることを意識させる。



授業改善プラン

| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点 | その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等) |
|-----|--|--|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○小学校図工での技術面での理解・定着について、今までの経験を基に、それを再確認し活用・発展させる力を育む。 ○対象物をよく観察し、表現の基礎となる「描写する力」「配色を発想工夫する力」「構成を発想する力」等を豊かに発想させ、表現するための技術を習得できるよう指導する。 ○相手の制作の意図を聞き取り、互いの作品の良いところを伝え合うなどの対話的な学びを行う。互いの表現の工夫や違いを気づかせ、発想と表現の幅を広げるよう促す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○パワーポイントを使用して視覚的に分かりやすく記憶に残る導入を行い、制作に集中して活動できる環境の整備を行う。創造活動に主体的に取り組む意欲を高める。 ○対話的な鑑賞の授業を通し、自分の感想を発表することで主体的に学び、他の人の発表を聞くことで、いままで気付かなかった視点があることに気付くなどの能力を高める。 ○一人1台端末を活用した調べ学習等の指導と併せて、手書きでのワークシートの記入・提出、プレゼンテーションを行う。 |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○「描写する力」「配色を工夫する力」「構成を発想する力」等を材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、自己実現するための方法を考え、技術を習得し、見通しをもって表すことができるよう指導する。 ○造形的なよさや美しさ、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めるよう指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○パワーポイントを使用して視覚的に分かりやすく記憶に残る導入を行い、制作に集中して活動できる環境の整備を行う。 ○対話的な鑑賞の授業を通し、自分の感想を発表することで主体的に学び、他の人の発表を聞くことで、いままで気付かなかった視点について考察を深める能力を高める。 ○一人1台端末を活用した調べ学習等の指導と併せて、手書きでのワークシートの記入・提出、プレゼンテーションを行う。 |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○「描写する力」「配色を工夫する力」「構成を発想する力」等を材料や用具、表現方法の特性などから、自己実現するための方法を考え、技術を習得しつつ自分の価値意識をもって表わすことができるよう指導する。 ○造形的なよさや美しさ、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めるなどの活動の充実を図れるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○パワーポイントを使用して視覚的に分かりやすく記憶に残る導入を行い、制作に集中して活動できる環境の整備を行う ○鑑賞の授業を通し、他の人の発表を聞くことで、いままで気付かなかった視点について考察を深める能力をより高める。美術文化に関する鑑賞では、文化的な視点で作品を捉え、それぞれの国や時代による表現の特質をより一層明確にできるよう指導する。 ○一人1台端末を活用した調べ学習等の指導と併せて、手書きでのワークシートの記入・提出、プレゼンテーションを行う。 |

(7) 保健体育科

【中学校】

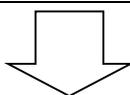
保健体育科における指導の重点

- 12分間走(クーパー走)の実践を通して、年に3回の体力向上月間を計画し、中野スタンダードを基に生徒一人ひとりが自分の目標を定め体力や運動能力向上の達成を目指す。
- 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて言語活動を充実させ話し合い活動を繰り返し実践することで協働的な学習による学びを大切に、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- 授業の進行役に徹し、生徒に考えさせ、説明させ、答えさせる展開による生徒を主体とした授業を行う。

現状分析

教科指導上の課題

- 生徒が自己の課題を確認し、振り返ることができるよう、Google classroomへ事前に動画をアップし競技へのイメージをもたせたり、スプレッドシートを活用して、授業振り返りを提出させるといった双方向型の活用を充実させる。
- 運動が好きで積極的に行動する生徒もいるが、運動への苦手意識があり意欲に欠ける生徒もいるため、準備運動で「北中サーキット」というサーキット・トレーニングを導入する。また、Google formsで授業アンケートを行い、より分かる楽しい授業を工夫するために、授業改善を行う必要がある。



授業改善プラン

| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点 | その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等) |
|-----|---|---|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習カードを充実させることによって、学習の見通しをもたせ、多様な選択肢から自己決定することができるようにする。また、毎時間、振り返りを書かせることで自分の課題を確認させ調整する学習を実現していく。 ○すべての単元でグループ学習を取り入れ、対話的な学びを重視する。その上で、どのように学ぶか(個か協働か)。どのようなペースで学ぶか(学習のデザイン)。何で学ぶか(ICTを活用した多種多様なコンテンツ)。生徒一人ひとりが学びのスタイルを選択し、実践できるように対応していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○コオーディネーショントレーニングを取り入れ、体力向上に繋げていく。 ○補助運動を工夫し、基本的な体の動かし方、基礎的な体力の定着に努める。 ○グループ活動を充実させ、意見を交換しながら自分の活動を振り返り、改善していける環境をつくる |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習カードを充実させることによって、学習の見通しをもたせ、多様な選択肢から自己決定することができるようにする。また、毎時間、振り返りを書かせることで自分の課題を確認させ調整する学習を実現していく。 ○すべての単元でグループ学習を取り入れ、対話的な学びを重視する。その上で、どのように学ぶか(個か協働か)。どのようなペースで学ぶか(学習のデザイン)。何で学ぶか(ICTを活用した多種多様なコンテンツ)。生徒一人ひとりが学びのスタイルを選択し、実践できるように対応していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○コオーディネーショントレーニングを取り入れ、体力向上に繋げていく。 ○補助運動を工夫し、基本的な体の動かし方、基礎的な体力の定着に努める。 ○グループ活動を充実させ、意見を交換することで、仲間を認め、自分や仲間の活動を振り返り、改善していける環境をつくる。 |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習カードを充実させることによって、学習の見通しをもたせ、多様な選択肢から自己決定することができるようにする。また、毎時間、振り返りを書かせることで自分の課題を確認させ調整する学習を実現していく。 ○すべての単元でグループ学習を取り入れ、対話的な学びを重視する。その上で、どのように学ぶか(個か協働か)。どのようなペースで学ぶか(学習のデザイン)。何で学ぶか(ICTを活用した多種多様なコンテンツ)。生徒一人ひとりが学びのスタイルを選択し、実践できるように対応していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○コオーディネーショントレーニングを取り入れ、体力向上に繋げていく。 ○補助運動を工夫し、基本的な体の動かし方、基礎的な体力の定着に努める。 ○グループ活動を充実させ、意見を交換することで、仲間を認め、自分や仲間の活動を振り返り、改善していける環境をつくる。 |

(8) 技術・家庭科 (技術分野)

【中学校】

技術・家庭科 (技術分野) における指導の重点

- 技術についての基礎的な理解や技能によって、問題を解決する実践的な資質・能力を育成する。
- 設計や製作などを通じて「技術による問題の解決」を構想しようとする態度を育成する。
- 学習活動を通して、技術の目で問題を見出す力や、主体的に設計・計画する力を育成する。

現状分析

教科指導上の課題

- 小学校からの学びのつながりを意識するように課題を配置し、問題解決に取り組ませる。
- 自分たちが取り組む問題解決学習を、社会とのつながりで意識させ、技術の「見方・考え方」がより広がるように指導する。
- 基本的な学習の流れを共通化し、見通しを立てて問題を解決する能力を深める。
- トレードオフの視点で、繰り返し考える事で、実践的な問題解決能力を育てる。



授業改善プラン

| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点 | その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等) |
|-----|---|---|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none">○導入課題の工夫により、技術の見方・考え方を育む。また、興味関心を持続させながら作業を進めていくために、小学校からの学びのつながりを意識するように課題を配置し、問題解決に取り組ませる。○ワークシートの内容を見直し、基礎的・基本的な内容を定着させる。○デジタルコンテンツとして要点をまとめたスライドを用意し、定期試験対策および個別の再確認や欠席者へ対応できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none">○カリキュラムマネジメントの観点からも、小学校や他教科との関連を積極的に図るようにする。○授業内容に沿ったワークシートを見直し、基礎的・基本的な問題に差し替え、定着を図る。○学習記録シートを作成し、授業ごとの振り返りを行うことで、取組を自己評価し、主体的に取り組む姿勢を定着させる。○製作の条件を提示することで、トレードオフの視点を意識させ、設計・製作を行う。 |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none">○グループなどで対話する場面、協働の場面を設定し、「対話的な学び」を重視し、生徒同士での学び合い、地域社会との繋がり、先人に学ぶ姿勢にも焦点が当たるようにする。○ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング体験に「ねそプロ」を利用し、プログラミングへの導入とする。○デジタルコンテンツとして要点をまとめたスライドを用意し、定期試験対策および個別の再確認や欠席者へ対応できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none">○単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し、振り返る場面を設定し、学習への主体的な取り組みを促す。○エネルギー変換の技術から社会とのつながりの中で課題となる事象を選択し、情報の技術の中で、DTPソフトを活用した「エネルギー新聞」制作を行う。○生徒が考える場面と教師が教える場面を明確に分けて授業を組み立てる。○技能の習得については、自分がかんたコツを言葉で表現させることで取組を自己評価し、主体的に取り組む姿勢を定着させる。 |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none">○プログラミングの課題において、プロジェクト型の問題解決学習とし、協働的な学びの実現を図る。○小学校からのプログラミング教育のつながりを意識し、「Scratch」を用いて課題解決学習を行う。○デジタルコンテンツとして要点をまとめたスライドを用意し、定期試験対策および個別の再確認や欠席者へ対応できるようにする。○3Dモデルの作成において、「Tinkercad」を使用することで、iPadの活用を図る。 | <ul style="list-style-type: none">○技術が果たす役割を、実習を通して感じた事や理解したことに関連づけることで、技術の「見方・考え方を」を深めていく。○クラウド型3D-CADソフトを使用し、夏休みの課題として家庭でiPadを活用させる。○総合実習として3Dプリンタを活用した題材を設定し、技術革新を牽引することができる資質・能力を育成する。製作の条件を提示することで、技術の最適化を意識させる。○学習記録シートを作成し、授業ごとの振り返りを行うことで、取組を自己評価し、主体的に取り組む姿勢を定着させる。 |

(8) 技術・家庭科（家庭分野）

【中学校】

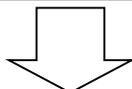
技術・家庭科（家庭分野）における指導の重点

- 実践的・体験的な学習を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を目指す。
- よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力と態度を育成する。
- 生活の課題と実践など、主体的に取り組む問題解決的な学習内容の充実を目指す。

現状分析

教科指導上の課題

- 小学校からの学びが定着していない生徒がいるので、小学校とのつながりを意識するように、既習事項を振り返りをながら目標を設定し、問題解決に取り組ませる。
- 生活の中で体験不足の生徒も多くいる現状があり、基礎・基本的な技能の定着を課題とする。
- 自ら生活の中で課題を見つけ、その課題を解決できる実践的な問題解決能力を育てる。



授業改善プラン

| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点 | その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等) |
|-----|--|--|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○3年間の学習の目標を随時確認させる。また、毎時間の目標と学習内容を示し、その授業で求められることが何なのかを明確に理解できるようにする。 ○ワークシートを毎回提出させ評価することで、基礎的・基本的な内容を定着させる。 ○デジタルコンテンツとして、パワーポイントを用いた授業を展開し、資料や映像などを多用することで、視覚的に内容が理解しやすいようにする。 ○調理実習においては、考察や考えを個人で考えた後、グループ内で共有する時間を設け、協働的な学習を行わせる。その中で、思考力や表現力をのばしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○長期休業中にiPadで献立作成アプリを使って、「バランスの取れた1日の理想の献立作成」を学習させ、実践的な態度を養い、自らの生活の中で課題を見つけ、その解決に向け工夫して学習に取り組む態度を育てる。 |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを毎回提出させ評価することで、基礎的・基本的な内容を定着させる。 ○被服実習では、作品製作に入る前に、小学校の既習事項であるミシンの学習を復習させ、一通りの操作のしかたを理解させる。また、ミシンの扱い方の動画や、縫い方を視聴し、グループで相互に教え合うなどで技能の定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○毎時間作業記録表の記入、提出をさせることより自分の進捗状況や自らの課題を明確にする。また、個別にアドバイスをする。 ○製作の説明時に、動画や実物見本を見せることにより、理解を深めさせる。 ○ハード面の充実。ミシン台数の不足など計画的に揃えていくことにより作業効率を向上させる。 |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを毎回提出させ評価することで、基礎的・基本的な内容を定着させる。 ○「幼児の喜ぶおもちゃ製作」においては、「乳幼児の発達」で学んだこと生かし、知識を思考・判断・表現に結びつけ、作品を製作させる。過去の作品例を多く見せることでイメージをつかませ、製作意欲を高めさせる。 ○製作の説明時に、動画や書画カメラで実物見本を見せることで理解が深まり、直ちに作業に取りかけられるようにしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○作品見本（写真や実物）を提示することで、具体的なイメージを持たせ、製作意欲を高めさせる。 ○毎時間作業記録表の記入、提出をさせることより自分の進捗状況や自らの課題を明確にする。また、個別にアドバイスをする。 ○製作の説明時に、動画や実物見本を見せることにより、理解を深めさせる。 ○ハード面の充実。ミシン台数の不足など計画的に揃えていくことにより作業効率を向上させる。 |

(9) 外国語科

【中学校】

外国語科における指導の重点

- 生涯にわたる様々な場面において活躍できる人材を育成するために、外国語でコミュニケーション力を図ることができる力の向上に努める。
- 思考力・判断力・表現力等の育成を重視し、ペアや小グループにおける会話やプレゼンテーション、ALT との会話などの学習を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を展開する。

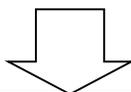
現状分析

区学力調査の結果分析

- 領域別に比較していくと、2つの学年すべての項目において全国・中野区の平均を上回っている。特に第3学年では全国と比べ領域で5ポイント以上上回っており、継続的な取組の成果が見られた。4層分析の結果からは、パターンⅢの傾向が見られた単元が多く、一部の生徒が未定着だと考えられる。また、単元別に分析していくと、第3学年ではほとんどの単元で達成率が全国平均に対して5ポイント以上上回っているが、「具体的な情報の聞き取り」では2.5ポイントの差に留まっている。第2学年では「必要な情報の聞き取り」での達成率が区平均に対して3.7ポイント程度下回るなど、内容によっては課題のある単元が見られた。

教科指導上の課題

- 「聞くこと」の対話文の応答において目標値・区平均正答率を上回ってはいるが、課題が見られた。授業でリスニング指導を継続するとともに、状況を的確に捉え、英語で答える練習をする指導が必要である。(3年生)
- 「書くこと」に関する4つの単元に関して、A層とD層の差が平均83.3点もあり、下位層の生徒の書く力を伸ばす指導が必要である。(2年生)
- 小学校で学習した内容に関して話すことはできるが、それを文字で表すことに苦手意識を持っている生徒が多い。「話すこと」とともに「書くこと」の指導を行う必要がある。(1年生)



授業改善プラン

| | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点 | その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等) |
|-----|---|--|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none">○既習事項や前時の内容を活用して、協働学習やペア学習での課題解決の場を設定し、周囲と共に解決を促す指導を行う。単元テストや定期試験の振り返りなど自身の学習状況の振り返りを行う機会を設定し、学びの自己調整の機会を設ける。○ミライシードを活用し、個別最適な学びの環境を構築する。 | <ul style="list-style-type: none">○授業時に単語復習活動を行い、新出文法を学習後、復習としてワークをする家庭学習の習慣を作る。○単元ごとに確認テスト（パフォーマンステスト）を行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を図ると共に、学びの自己調整を図る機会を設定していく。 |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none">○既習事項を活用したグループ活動やペア活動を行う。協働して課題を解決するような活動を充実させる。一人1台端末を使い情報検索、スライド作成、情報共有を行う。○単元テストの結果を基に、定着が不十分な内容に関してはミライシードを活用する。 | <ul style="list-style-type: none">○毎回授業の最初の10～15分で、短い帯活動を2～3種類行う。短時間、スモールステップで単語の確認や既習事項の振り返りを行う。○既習事項の教え合い学習を行う。教わる側の生徒は新しい知識として学び、教える側の生徒は、既習内容を他者に噛み砕いて説明することで、さらに知識が深まることが期待できる。 |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none">○ペア活動やretell・パフォーマンステストなど、生徒が話す・聞く機会や活動をする時間を確保する。分かったことについて教え合うことで、学びを深める機会をもたせる。○リスニングやディクテーション、ライティングを行い、聞く・書く機会を多く持つ。○宿題や授業のまとめでA Iドリル等を活用し自ら考える力や学ぶ力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none">○基礎・基本の定着を図るためのスモールステップを踏んだ段階的・継続的な指導を行う。文字と発音のつながりを意識した発音練習を行う。○スペリングコンテストを計画的に行い、語彙力の向上を図る。○継続的にリスニング問題に取組み、大意を捉えることや、内容について英語で答える練習を行う。 |

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

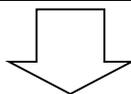
道徳科における指導の重点

- 教育活動全体を通して、生命尊重・人間育成の精神を基盤に人としてのあるべき姿を学ばせ、社会人としてたくましく生きる力を育成する。
- 評価について、自己評価や相互評価、ワークシートの記述などを取り入れ、生徒の学習状況や道徳性に係る変容を捉えて表現するなど、多様な評価方法を工夫する。
- 3年間を見通した指導計画を作成して道徳の授業の充実を図り、保護者や地域と連携して生徒を育成していく。

現状分析

教科指導上の課題

- 道徳的な課題を一人ひとりの生徒が自分の問題として捉え向き合えることができるように、生徒がこれまでの経験を通して考え、自分を見つめる指導を行う必要がある。
- キラリノートへの記入が生徒によって差があるので、自分の言葉で自分の意見を書ける指導をする必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- 自身の体験や感じ方を生かして、考えを深めたり、自己を見つめたりできるよう、登場人物の心情を理解するだけの指導にならないように努める。
- ICTを活用した発表や意見交換を、グループや全体で行い、意見の共有を図る。
- 質問内容をわかりやすく伝え、考え、書く時間をしっかりと確保する。